インターンシップで企業のサステナ経営へのアイデアを学生が提言

2022 年 2 月 21 日 毎日新聞@大学

ホンダカーズ東海での店舗見学をした学生たちと店舗関係者＝名古屋市内で2021年11月5日（ナジック提供）

ホンダ車の販売などをしているホンダカーズ東海（本社・名古屋市）は、学生情報センター（本社・京都市、ナジック）が提供している有給インターンシッププログラム「SDGs（持続可能な開発目標）活動推進ラボ」を活用し、同社でインターンシップをした学生からサステナビリティー経営について、学生目線での提言を受けた。

同社でインターンシップを行ったのは中京大や愛知芸術大、名古屋市立大などの 10 人。店舗見学や社員のインタビュー、企業研究などに取り組み、SDGs 達成に向けた課題の抽出を行った。さらに、SNS（ネット交流サービス）を活用した市場調査での実証を進めながら、解決のためのアイデアを創出。最終的に具体的な施策と、同社の SDGs 憲章の仮案作成にも挑戦した。

プログラムには複数の大学の意欲の高い学生が参加しており、昨年 12 月に開催された発表会では、社員と学生により活発な意見交換がなされた。さらに、昨年末には同社の親会社である VT ホールディングス（本社・名古屋市）に新設されたサステナビリティ委員会が、学生から提案された電気自動車の試乗会やセミナーなどの実施を検討することになった。

ホンダカーズ東海は 1983 年に創業し、愛知県や岐阜県で事業を展開。以前から地域密着型の経営を行っており、地元学生の支援にも取り組んできた。2019 年から学生支援事業を行っているナジックの学生有給インターンシッププログラム「SDGs 活動推進ラボ」を活用し、ショッピングセンターでの新車プロモーションの企画運営やショールームのブランディングなどに学生の視点を生かしてきた。また、このプログラムに参加した学生からは「SDGs の視点から店舗を見学することで、企業として決定したことが社員の働きがいにつながることが分かった」という感想が聞かれた。【中根正義】